

研修報告

『相互啓発研修』

主催：機能分野別研修委員会

◆テーマ：「南海トラフ地震に備える災害ソーシャルワーク研修 4」

◇研修期間：2022年9月3日(土) *見逃し配信期間9月5日～9月18日

◇講師：講義① 岩手県立大学 社会福祉学部 伊藤隆博氏

「都道府県医療ソーシャルワーカー協会の災害福祉支援ネットワーク・災害派遣福祉チーム参画への課題」

講義② 愛知県精神保健福祉士協会 杉原直樹氏

「精神保健福祉士協会の災害対策の取り組み」

◇参加人数：21名(会員14名、非会員7名)

◆講義内容：

岩手県立大学・伊藤氏の講義①では、大規模災害時に「災害派遣福祉チーム(DWAT)」が立ち上がるまでの災害福祉支援ネットワーク(NW)に職能団体として参画することを皮切りに、岩手県での実践活動も紹介されました。支援活動の基本は、被災者・被災地の福祉の自立を促進すること。自分がやりたいことではなく、被災地の意向に寄り添って必要とされる活動を行うこと。ひと・もの・かねといった地域のリソースに負担をかけない自己完結型の活動。そしてあらゆる職種と連携を図る、との原則のもとに、熊本地震や豪雨での避難先での派遣活動が報告されました。

また、災害派遣福祉チームにMSWが入ることの意義について、保健・医療・福祉が連携することで、医療支援から避難生活、生活再建支援まで避難者の幅広いニーズに対応できること。また、福祉職が医療専門職との連携に不慣れである点において、MSWが一員になることで他の保健・医療チームの懸け橋になることが期待されます。一方で、都道府県協会に対して行われたNWやDWATの参画に関するアンケート結果では、協会として関わりたいという意志はあるも、NW事務局やDWATの詳しい動向を把握していないことや、また県の主幹部局やNW事務局である都道府県社協との連携に課題がみられる事などを明らかにされました。協会が参画するうえでは正確な情報収集に基づいて、協会としての方針を検討することが望ましいとも指摘されていました。

次に愛知県精神保健福祉士協会(MH協会)の杉原氏の講義②では、「災害派遣精神医療チーム(DPAT)」の活動紹介がされました。「災害精神医療」は、地域精神科医療機関の機能の補完・増強や、精神疾患をもつ被災者への医療的支援、災害のストレスによって新たに生じた精神的問題等に対応するものです。DPATでは、実際に向精神薬の処方もできることに驚きました。さらにMH協会では会員に対するブロックメーリングリスト、安否確認訓練を実施して「I'm safe!」をいち早く確認する体制が既に構築されています。なお、南海トラフ地震が起きると言われているが幸いにも大きな災害に見舞われていない東海地域ゆえに、災害対策への重要感と優先順位の矛盾が生じていると考察されていました。

◆グループワーク：

参加者同士で、どんな災害SWへの取り組みをされているか情報交換を行いました。

文責：機能分野別研修委員長 安城更生病院 片寄